

# 病気から子どもを守る予防接種

**予防接種とは**

赤ちゃんは母親からいろいろな病気に対する免疫をもらって生まれますが、その免疫は生後8カ月から12カ月ごろまでに失われていきます。そのため、赤ちゃん自身が免疫力をつけなければなりません。この免疫力をつけるために役立つのが予防接種です。

予防接種とは、ワクチン（病原体や毒素の力を弱めて作った薬液）を接種して免疫をつくり、病気に対する抵抗力をつけて発病を予防したり、症状を軽くしたりする方法のことです。

予防接種には、法律に基づいて市町村が実施する定期接種（期間内に受ければ無料）と、接種者の希望で受ける任意接種（一部費用助成もあるが多くは有料）があります。また、定期接種には、町が実施する集団接種と各自医療機関に行く個別接種

種があり、それぞれ対象となる病気、ワクチンの種類、対象年齢、期間などが定められています。予防接種の詳しい内容は町ホームページ、「平成23年度乳幼児健診・予防接種・健康相談日程表」などで確認してください。接種スケジュールは、乳幼児健康診査などで医師や保健師が適切な時期を説明しますが、いつ接種すればよいのか困った時は、町保健福祉課に相談してください。

**子どもとヒブ・小児用肺炎球菌**

任意接種のうち、ヒブと小児用肺炎球菌の予防接種については、4月1日から町の一部費用助成が始まりました。

ヒブはインフルエンザ菌b型(Hib)と呼ばれる細菌で、新型インフルエンザや冬に流行する季節性インフルエンザとは全く別のものです。イ

ンフルエンザ菌は子どもの鼻やのどに感染する細菌で、中でもb型は細菌性髄膜炎などの重い感染症を引き起こします。

肺炎球菌は、子どもの鼻の奥や気道などに存在しています。保菌しているだけでは問題ありませんが、子どもは肺炎球菌に対する抵抗力がないため、比較的簡単に感染してしまいます。肺炎球菌に感染すると、細菌性髄膜炎や肺炎、菌血症、中耳炎といった病気をひきおこします。

細菌性髄膜炎は、ヒブや肺炎球菌などの細菌が脳や脊髄を包む髄膜の奥まで入り込んで起こる病気です。症状は、熱が出る、吐くなど風邪との区別がつきにくいいため、病気の発見が遅れることがあります。診断されたときにはかなり病気が進行してしまっているということも少なくありません。細菌性髄膜炎にかかる

時には命を落としてしまうこともあります。中には、発熱してからわずか1日で命を落とした例もあります。細菌性髄膜炎は、年齢ともにかかりにくくなりますが、5歳ごろまでは注意が必要です。ヒブと肺炎球菌による細菌性髄膜炎などの重い感染症を予防するためには、早い時期に免疫をつけることが大切です。

今春、2種以上のワクチンを同時接種した後に死亡した子どもがいたことと、ヒブと小児用肺炎球菌の予防接種が一時中断されました。その後、同時接種と死亡した子どもの因果関係がないことが分かり接種は再開されましたが、現在も保護者の皆さんからは不安や質問の声が多く聞かれます。副反応を心配して予防接種を受けない人もいますが、その病気に感染した場合のリスクや重症化する頻度を知らずに判断することは危険です。現

在、ヒブに感染する人は年間800人以上、肺炎球菌に感染する人は年間300人以上います。時には命に関わったり、重い後遺症が残ったりすることもあります。ワクチン接種による事故より、接種を受けずに病気になる方が確率ははるかに高いと言えます。

したがって、これらの予防接種については、各家庭でよく考え、かかりつけの医師と相談の上、接種を選択してください。また、ワクチン接種は体調の良い時に受けるのが基本です。子どもの体調に注意し、安全に受けられるようにしましょう。

子どもや大切な家族の健康を守るため、また、他の人にうつさないためにも、予防接種についてよく理解し、接種を受けましょう。

▼相談・問い合わせ先  
保健福祉課  
健康づくり業務  
☎(62)2115



みんな笑顔で「ハイ、チーズ」

「猪苗代は子育てには良い環境。二人ともおびのびと元気に育てほしい」パパとママはそう言って二人にやさしく手を添えます

## 佐藤 暖花 ちゃん

平成 22 年 5 月 生まれ  
～関脇  
孝行さん・亜紀子さん夫婦の長女

「こんにちは」と大きな声であいさつをする児童音くんとは対照的、少し恥ずかしがり屋な暖花ちゃんは、お父さんの膝の上ではにかんんでいます。暖花ちゃんの遊びは、お兄ちゃんの後を追うことから始まります。絵本やアニメ番組を見るのもブロック遊びも全部お兄ちゃんと一緒に。大好きな電車は、おじいちゃんたちと一緒に乗ったり、見たりして楽しんでいきます。毎日のお風呂はお父さんの仕事。食事の世話なども積極的にしてくれるイクメンの孝行さんに、亜紀子さんは「本当に助かりますね」と笑います。子どもたちが家族の中心だという佐藤さん一家で散歩に出かけ、電車に向かって手を振ります。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。  
☎(62)2111

## サークル紹介

### Circle introduction

学びいの中に入ると、どこからともなく聞こえてくる伸びやかな歌声。その正体は猪苗代歌謡教室の皆さんです。

「歌の好きなメンバーが集まって、とにかく楽しく歌うことを目的に活動している」と話すのは鈴木覚会長。月に2回、13人の会員が学びいまで練習を重ねています。

9月25日には、町内のさまざまな団体をゲストに迎え、チャリティーショー、いなわしろ歌謡ステージを開催します。

ステージの演出などを手がける佐藤貞二さんは、「ステージを見た人を勇気づけ、楽しませるものになりたい。歌の楽しさを感じに、ぜひお出でください」と話しました。

このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。  
☎(62)2111

## 猪苗代歌謡教室

さとる 覚会長  
(鈴木 覚会長)



(写真左) とにかく楽しく活動することが一番と話す鈴木会長  
(写真右) 9月25日に開催される、いなわしろ歌謡ステージのパンフレット。歌、踊りと太鼓の競演をお楽しみください

9月25日の公演に向け、気合十分の会員の皆さん

